

宇陀市学校規模適正化検討委員会
中間報告

令和2年7月

宇陀市学校規模適正化検討委員会

< 目 次 >

1 はじめに	1
2 これまでの経緯	2
3 宇陀市立小中学校の現状	
(1) 宇陀市立学校の統廃合の歴史	3
(2) 児童生徒数の推移	4
(3) 学力、体力、問題行動の現状	5
(4) 部活動の状況	9
4 「宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査」の結果について.....	10
5 今後について.....	18
(1) 今後の検討課題	
(2) 今後のスケジュール	
【参考】	
宇陀市学校規模適正化検討委員会条例	19
委員名簿	20
諮問書	21
アンケート調査票	22

Ⅰ はじめに

全国的に少子化が進む中、宇陀市においても、平成 18 年度には、小学生で 1,707 名、中学生で 999 名 計 2,706 名 在籍していた児童生徒数が、令和元年度では、小学生で 1,152 名、中学生で 620 名 計 1,772 名 と約 35%減少し、このまま推移すると5年後の令和 6 年度の見込みでは、小学生 931 名、中学生 505 名 計 1,436 名とさらに約 14%減少し、小・中学校とも合併当時の 50%程度になることが予想されています。このような児童生徒数の減少により全国的に「学校の小規模化」が進んでいます。「学校の小規模化」の問題は、学校における教育活動や学校運営など、さまざまな面に影響を及ぼすことが懸念されています。宇陀市においても、学校の小規模化が進んでいることから、児童生徒にとって「好ましい教育環境」を整えることは今後の教育の喫緊の課題です。

また、国際化・高度情報化・GIGA スクール構想という急速な社会の変化の中で、将来を担う子どもたちにどのような「力」を培うのか、さらには多様で複雑化する価値観や意識の中で、社会の中で主体的に「生きぬく力」を育むのか等教育に課せられた期待は大きいものがあります。

このような状況に鑑み、宇陀市教育委員会では「宇陀市学校規模適正化検討委員会条例（平成 31 年宇陀市条例第 14 号）」において「宇陀市学校規模適正化検討委員会」が設置され、宇陀市教育委員会から下記の諮問を受けました。

○宇陀市立小・中学校の規模の適正化に関する基本的な考え方について

○宇陀市立小・中学校の配置の適正化に関する基本的な考え方について

本検討委員会では、令和元年度より本市の小・中学校の現状や児童生徒数の推移、保護者や教職員を対象としたアンケート調査の結果を基に、慎重に審議を行ってきました。本中間報告は、これまでの審議の結果をまとめたものであり、各関係者をはじめ、市民の理解と協力を得て、さらなるご意見をいただきながら、宇陀市の児童・生徒にとってより良い教育環境づくりに向けた指針となると同時に、将来を見据えた適正規模及び適正配置の在り方についての答申へと反映されることを期待します。

令和 2 年 7 月

宇陀市学校規模適正委員会

委員長 赤沢 早人

2 これまでの経緯

本検討委員会は、令和元年度は3回の委員会開催を予定し、令和元年11月12日（火）に第1回検討委員会を実施した。その後、2月7日（金）に第2回検討委員会を実施した。第3回検討委員会を3月に予定していたが、コロナウイルス感染症の拡大防止のため、コロナウイルス感染症の状況が沈静化するまで、延期することとなった。第1回、第2回の検討委員会の概要は、以下のとおりである。

○第1回宇陀市学校規模適正化検討委員会

日 時 令和元年11月12日（火）午前9時30分～

場 所 宇陀市役所 3階 312会議室

概 要 事務局から「宇陀市学校規模適正化検討委員会」設置理由について説明後、委員長・副委員長の選出を行った。結果、委員長に奈良教育大学教授 赤沢早人委員、副委員長に奈良教育大学教職大学院准教授 東畠智子委員を選出した。

その後、事務局から宇陀市の小中学校の現状についての報告を受け、児童生徒数の推移や学力・体力等の現状、部活動の状況等についての理解を図った。

また、宇陀市立小学校・中学校の適正規模・適正配置を検討するにあたり、学校現場に最も関わりの深い方々の声を十分に受け止める必要があるとの趣旨から、保護者及び教職員のアンケートを実施することが承認され、アンケート項目についての意見交換を行った。

○保護者・教職員アンケート

期 間 令和元年12月9日（月）～12月20日（金）

概 要 宇陀市立幼稚園・保育所（園）・こども園、しらゆり保育園の保護者及び教職員、宇陀市立小学校及び中学校の保護者及び教職員を対象に実施した。学校を通じて、アンケートを配布・回収を行った。

○第2回宇陀市学校規模適正化検討委員会

日 時 令和2年2月7日（金）午後1時00分～

場 所 宇陀市役所 2階 212会議室

概 要 主にアンケートの結果より、考察を行った。アンケート結果については、保護者と教職員で大きな違いはなく、小中学校とも、1学級あたりの児童生徒数については、21～30人が望ましい、学級数については、2～3学級が望ましいとの回答が一番多く、50%を超えた。

また、中間報告について協議し、第3回検討委員会で素案を提出し、検討することになった。

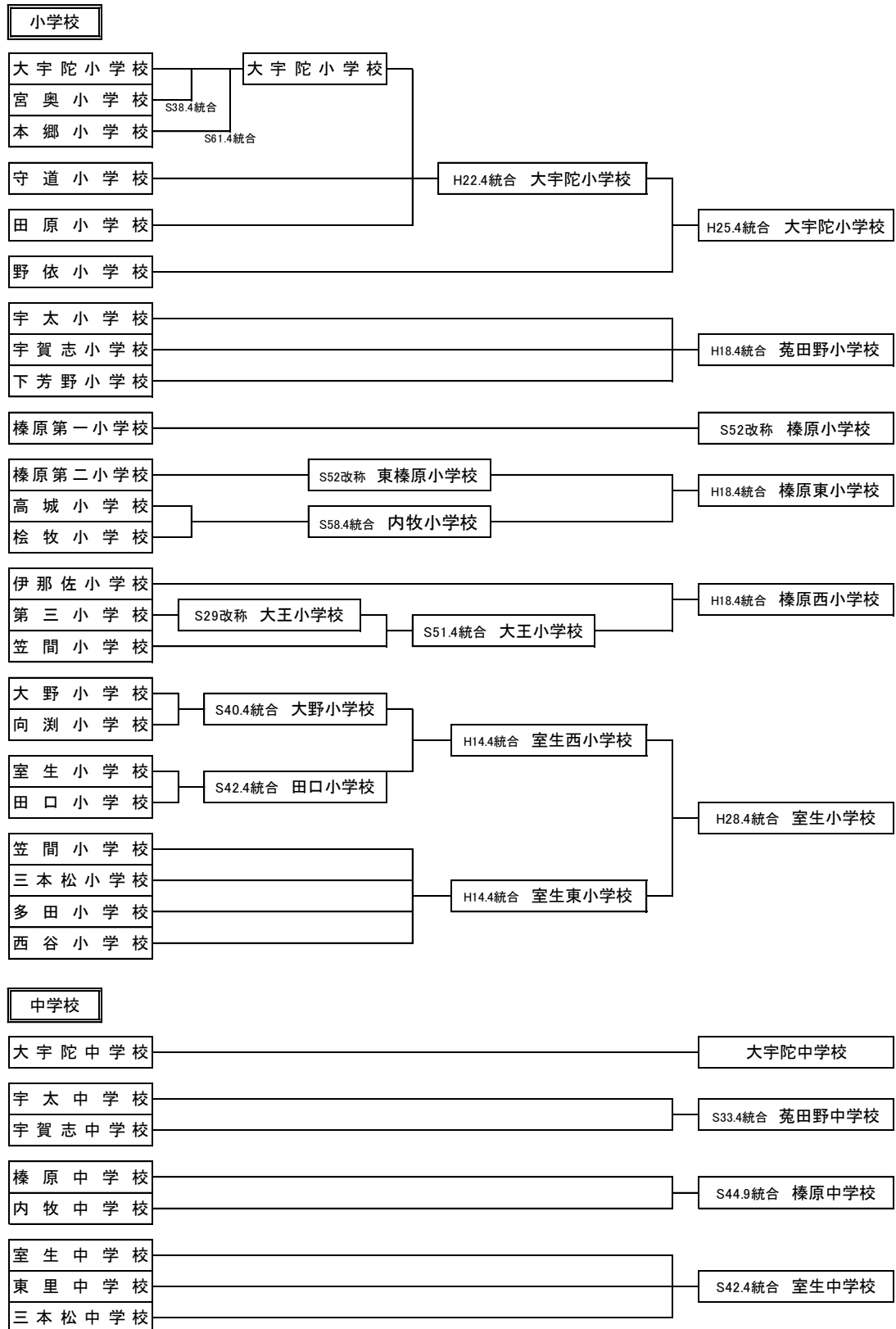
○第3回宇陀市学校規模適正化検討委員会

※ 3月に開催予定であったが、コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催を延期した。

3 宇陀市立小中学校の現状

(1) 宇陀市立学校の統廃合の歴史

昭和22年4月 以降



(2) 児童生徒数の推移

宇陀市児童・生徒数の推移(H18～R6)

【小学校】

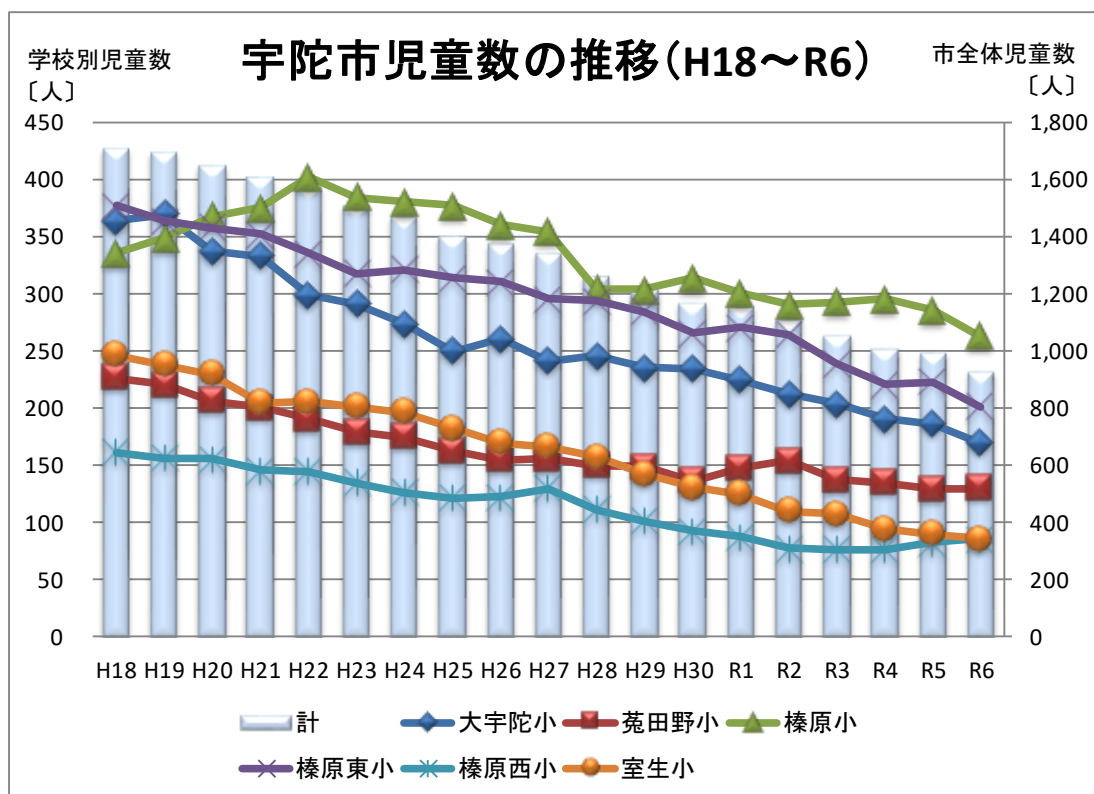
〔人〕

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
大宇陀小	363	369	336	332	298	291	273	249	260	241	245	235	234	224	212	203	190	186	169
大宇陀小	173	178	167	171	224	225	213												
野依小	100	97	89	87	74	66	60												
守道小	38	40	35	32															
田原小	52	54	45	42															
菟田野小	226	220	206	200	190	178	174	162	154	155	149	148	136	147	153	137	134	128	129
榛原小	335	348	367	375	401	384	380	376	360	354	304	303	313	300	290	292	295	285	262
榛原東小	376	363	357	351	335	317	321	313	310	295	293	284	265	270	264	238	220	222	201
榛原西小	161	156	155	145	144	134	126	121	122	129	111	101	92	87	77	76	76	82	85
室生小	246	237	229	204	205	201	196	182	169	166	157	142	130	124	109	107	93	89	85
室生西小	152	139	140	115	117	116	109	105	93	96									
室生東小	94	98	89	89	88	85	87	77	76	70									
計	1,707	1,693	1,650	1,607	1,573	1,505	1,470	1,403	1,375	1,340	1,259	1,213	1,170	1,152	1,105	1,053	1,008	992	931

【中学校】

〔人〕

	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
大宇陀中	228	200	194	172	186	171	162	150	144	142	120	125	113	111	107	113	117	102	99
菟田野中	129	120	115	123	120	109	105	102	101	98	94	89	95	91	94	82	78	82	70
榛原中	511	475	450	405	396	410	421	419	420	419	424	382	378	336	352	342	328	295	277
室生中	131	112	119	125	128	119	107	103	102	89	94	93	95	82	67	65	72	64	59
計	999	907	878	825	830	809	795	774	767	748	732	689	681	620	620	602	595	543	505

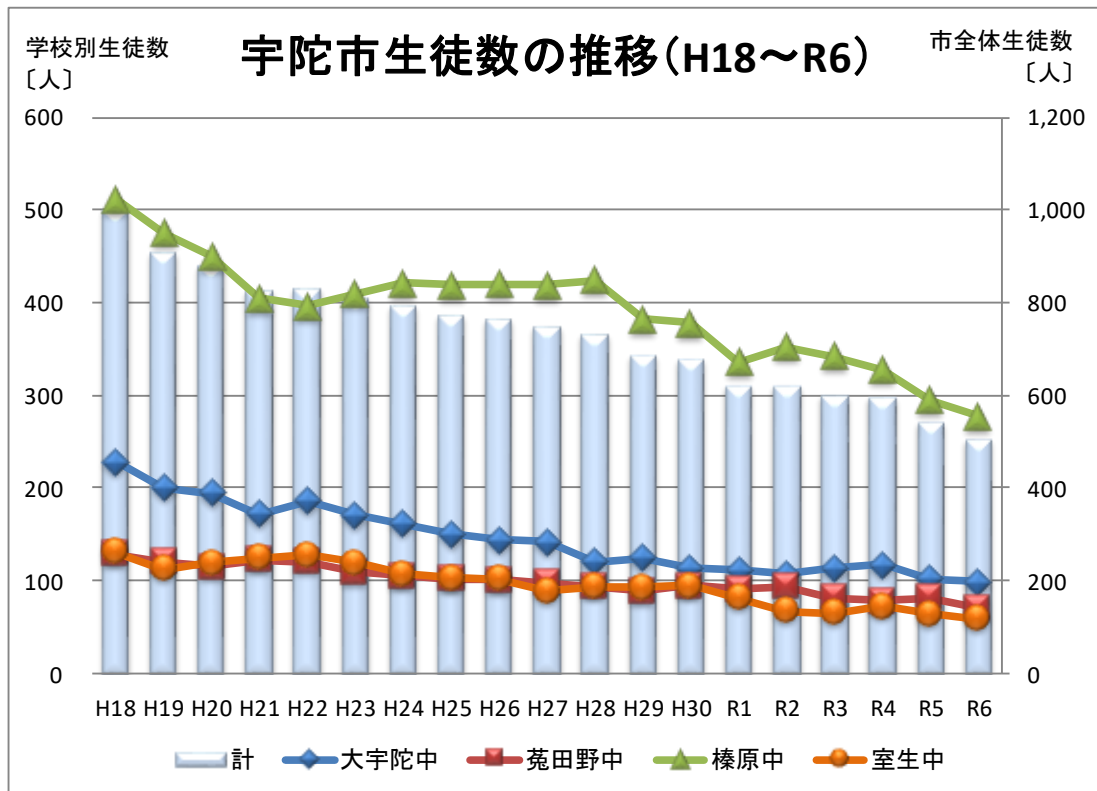


H20～R2 5.1現在

R3～R6 住民基本台帳より(H31.3 教職員課提出資料より)

※大宇陀小 H20～H21 (大宇陀小・野依小・守道小・田原小の計)
H22～H24 (大宇陀小・野依小の計)

※室生小 H20～H27 (室生西小・室生東小の計)



H20～R2 5.1現在

R3～R6 住民基本台帳より (H31.3 教職員課提出資料より)

※過去3年間の入学率考慮

令和元年度の児童生徒数は、合併当時(平成18年)と比べると、小学校は約67%、中学校は約62%となっており、さらに、令和6年度見込みでは、小中学校とも合併当時の50%程度になっている。

(3) 学力、体力、問題行動の現状

《学力》

「平成31年度 全国学力・学習状況調査」より

①実施日

平成31年4月18日(木)

②調査対象 ()は市内の対象者数

小学校第6学年(209人) 中学校第3学年(205人)

③調査内容

○教科に関する内容(国語、算数・数学、英語)

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

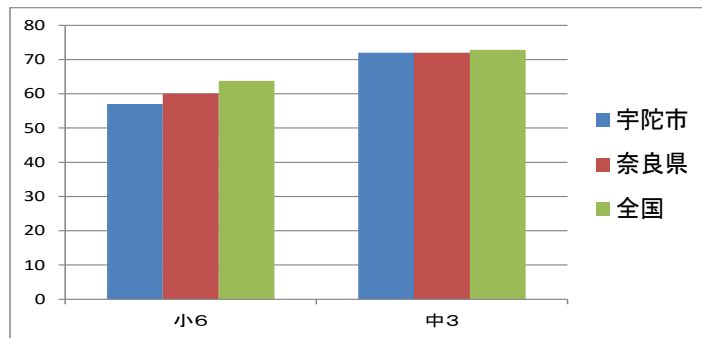
○生活習慣や学校環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
- ・学校に対する調査

④ 調査結果

(国語)

平均正答率	小6	中3
宇陀市	57%	72%
奈良県	60%	72%
全国	63.8%	72.8%

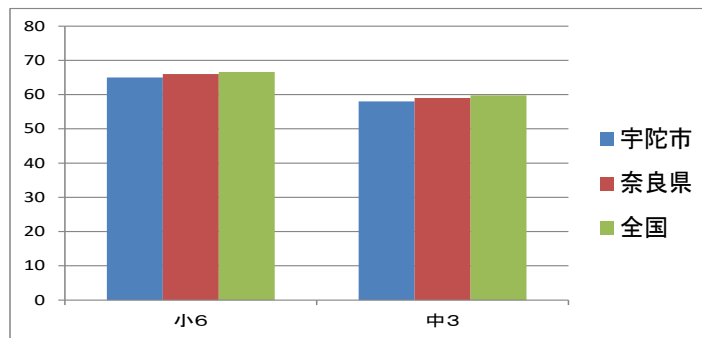


○小学校国語は、全国平均を大きく下回っている。

○中学校国語は、全国平均とほぼ同じ。

(算数・数学)

平均正答率	小6	中3
宇陀市	65%	58%
奈良県	66%	59%
全国	66.6%	59.8%

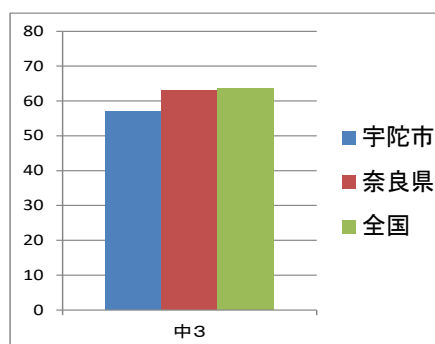


○小学校算数は、全国平均をやや下回っている。

○中学校数学は、全国平均をやや下回っている。

(英語)

平均正答率	中3
宇陀市	57%
奈良県	63%
全国	63.5%



○中学校英語は、全国平均を大きく下回っている。

《体力》

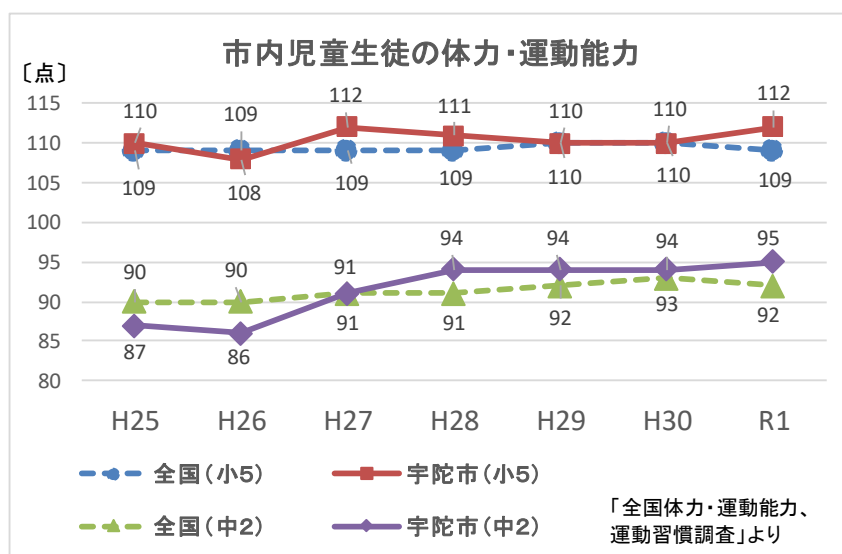
「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」より

令和元年度 児童・生徒の体力テスト結果概要 ～年次の推移～

令和2年1月 宇陀市教育委員会

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
全国（小5）	109	109	109	109	110	110	109
宇陀市（小5）	110	108	112	111	110	110	112
全国（中2）	90	90	91	91	92	93	92
宇陀市（中2）	87	86	91	94	94	94	95

※体力テスト得点による比較



○小5では、全国平均より3点上回った。

○中2でも、全国平均より3点上回っている。

○同一集団での変化を見ると、平成28年度の小学校5年時の調査においては全国平均を2点、令和元年度の中学校2年時の調査では3点上回っている。

○小5男子は、長座体前屈以外のすべての項目で本年度の全国平均を上回った。女子は握力・反復横跳び・20mシャトルラン・立ち幅跳び・ボール投げの5種目で全国平均を上回っており、体力の合計得点においても全国平均を上回った。上体起こしと長座体前屈における結果が全国の平均と大きく開いた。小学校5年生の男女に限らず、長座体前屈で測る柔軟性が、ほとんどの学年において全国平均を下回っている現状である。これは、県全体での大きな課題でもある。

○中2男子は、握力・上体起こし・反復横とび・持久走(20m シャトルラン)・50m走・立ち幅とび・ハンドボール投げの7種目で全国平均を上回っている。女子も、握力・上体起こし・反復横跳び・持久走(20mシャトルラン)・50m走・立ち幅跳び・ボール投げの7種目で全国平均を上回った。特に反復横とびが全国平均を大きく上回った。長座体前屈は、男女ともに全国平均を下回ったが、体力の合計得点では、全国平均を上回る結果となった。

＜問題行動＞

「児童生徒の問題行動・不登校・生徒指導上の諸課題に関する調査」より

児童生徒の不登校・暴力行為・いじめの1,000人当たりの件数及び本市の件数

【小学校】

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
不登校 〔人〕	全国	3.6	3.9	4.2	4.8	5.4	7.0	未公表
	宇陀市	4.9	2.9	4.5	7.1	9.9	8.5	10.8
	児童生徒数	6	4	6	9	12	10	13
暴力行為 〔件〕	全国	1.6	1.7	2.6	3.5	4.4	5.7	未公表
	宇陀市	2.5	0.0	0.0	0.8	0.8	1.7	2.5
	発生件数	3	0	0	1	1	0	3
いじめ 〔件〕	全国	17.8	18.6	23.1	36.6	49.1	66.0	未公表
	宇陀市	5.8	8.7	14.2	11.1	145.1	139.3	207.0
	認知件数	7	12	19	14	176	163	249

【中学校】

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
不登校 〔人〕	全国	26.9	27.6	28.3	30.1	32.5	36.5	未公表
	宇陀市	28.4	19.6	8.0	6.8	30.5	33.8	42.2
	児童生徒数	22	15	6	5	21	23	27
暴力行為 〔件〕	全国	11.3	10.1	9.5	8.8	8.5	8.9	未公表
	宇陀市	22.0	5.2	5.3	13.7	7.3	2.9	1.6
	発生件数	17	4	4	10	5	2	1
いじめ 〔件〕	全国	15.6	15.0	17.1	20.8	24.0	40.9	未公表
	宇陀市	2.6	15.6	26.7	13.7	21.8	30.8	51.6
	認知件数	2	12	20	10	15	21	33

○不登校の発生件数については、小学校が全国平均よりやや高い。また、本市の不登校の児童生徒数については、小中学校ともに漸増している。

○暴力行為発生件数については、小中学校とも全国平均より低い傾向にある。

○いじめの認知件数については、小学校は全国平均よりかなり高く、中学校はやや低い傾向にある。これは、いじめは、大人の目には見えにくいことから、単に「数字が少なければよい」と考えるのではなく、小さいいじめも見逃さず、その解消を図っていくという姿勢が教員間で定着した影響も考えられる。

○本市では、不登校児童生徒への支援として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、特別支援教育指導員、適応指導教室、児童福祉担当課など、学校と関係機関が連携して組織的に支援する体制づくりを進めている。

子どもの規範意識と自尊心について 「全国学力・学習状況調査より」

[%]

質問		全国 (H31)	奈良県 (H31)	宇陀市 (H31)	肯定的な回答をした児童生徒の割合の全国との差				
					H27	H28	H29	H30	H31
学校のきまりを守っていますか	小	92.3	90.8	88.6	2.0	-1.1	0.3	-5.1	-3.7
	中	96.2	94.4	97.1	-5.2	-2.8	-1.0	1.1	0.9
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う	小	97.1	97.5	95.7	0.5	0.6	2.9	-2.7	-1.4
	中	95.1	94.6	95.4	-3.3	-2.6	-3.5	-1.9	0.3
自分には、よいところがあると思いますか	小	81.2	79.8	84.8	-1.2	-8.7	-6.5	-8.7	3.6
	中	74.1	71.2	68.3	-5.8	-6.7	-1.0	-2.6	-5.8
将来の夢や目標を持っていますか	小	83.8	83.5	81.6	0.5	1.4	1.4	-6.1	-2.2
	中	70.5	68.8	63.5	-2.6	-8.9	-4.0	0.1	-7.0

○各質問項目に肯定的な回答をした児童生徒の割合の全国平均との差は、年度によってばらつきが見られるが、「自分にはよいところがあると思う」という自尊心に関わる項目について、小中学校とも全国平均よりも特に低い傾向が見られる。

(4) 部活動の状況

令和2年度 宇陀市立中学校の部活動の状況

R2.6.25現在

	大宇陀 中学校	菟田野 中学校	榛原 中学校	室生 中学校
生徒数〔人〕	107	94	353	67
陸上競技	10		27	24
野球	2	6	16	9
ソフトテニス(男)	10		10	
ソフトテニス(女)	13		12	
バスケットボール(男)	8	24	22	
バスケットボール(女)			13	
バレーボール(男)		24	12	
バレーボール(女)		9	17	8
バドミントン	20		21	
卓球			19	
剣道			17	
吹奏楽	9	16	18	10
書道	12		13	
科学			3	
美術	14		39	
文芸		6		
文化研究				6
部活加入者〔人〕	98	85	259	57
加入率〔%〕	91.6	90.4	73.4	85.1

○各学校の生徒数に合わせて10~20人程度の規模で活動することができるように部活動を精選する一方で、生徒の多様な希望に沿った活動を保障するために、他校と合同で行う部活動も見られる。

4 「宇陀市学校規模適正化に関するアンケート調査」の結果について

(1) 調査の目的

宇陀市立小学校・中学校の適正規模・適正配置を検討するにあたり、学校現場に最も関わりの深い保護者及び教職員の意見を集約し、今後の方向性を検討する資料とするため本アンケートを実施した。

(2) 調査の対象等

宇陀市立幼稚園・保育所(園)・こども園、しらゆり保育園の保護者及び教職員
宇陀市立小学校及び中学校の保護者及び教職員

(3) 調査の方法等

- ①作成 宇陀市学校規模適正化検討委員会
- ②期間 令和元年12月9日(月)～12月20日(金)
- ③方法 市立幼稚園・保育所(園)・こども園、しらゆり保育園及び市立小学校・中学校を通じて、保護者及び教職員に配布し、回収を行った。

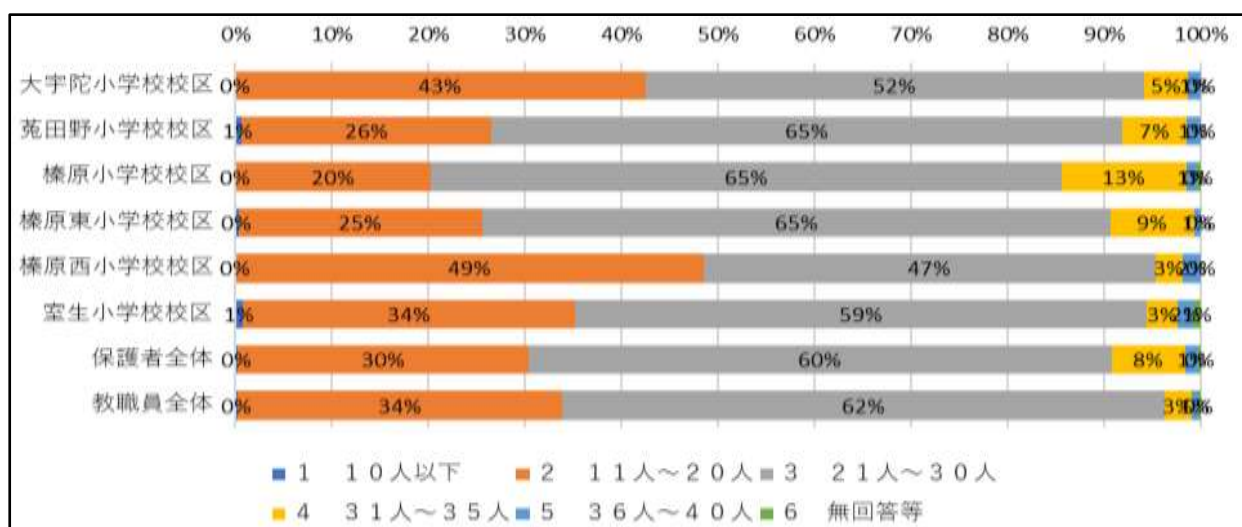
(4) 配布数及び回収数等

種 別	配布数	回収数	回収率
幼稚園・保育所(園)・こども園保護者	518	468	90.3%
小学校保護者	848	726	85.6%
中学校保護者	558	410	73.5%
教職員	364	351	96.4%
合 計	2288	1955	85.4%

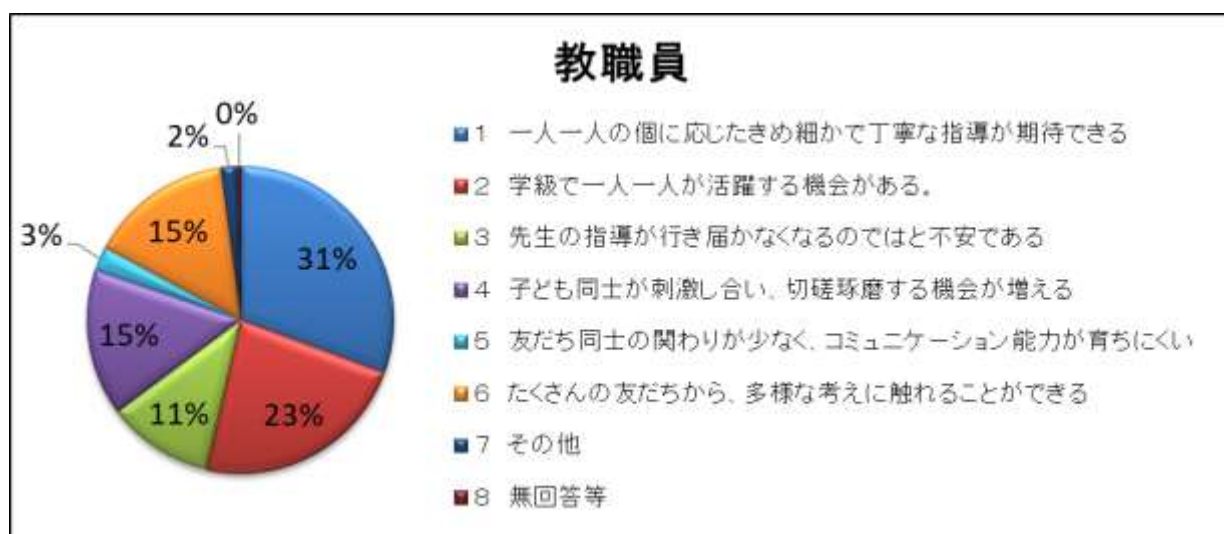
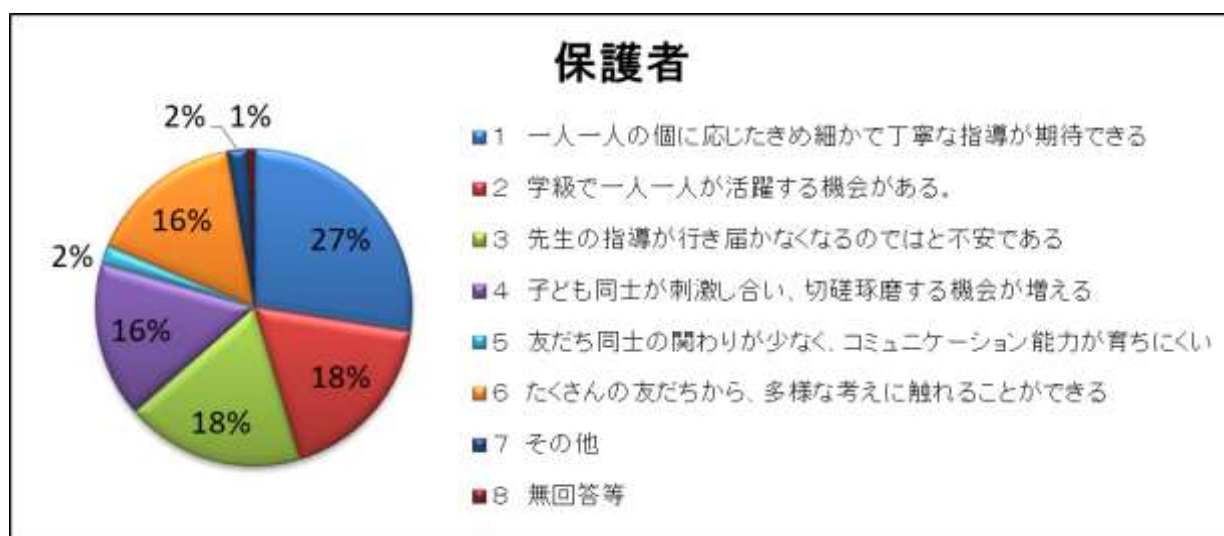
※ 回収に関しては、各家庭 1 部のため、各校種にお子さんがある家庭は、重複して回収数をカウントしている。

(5) 調査結果

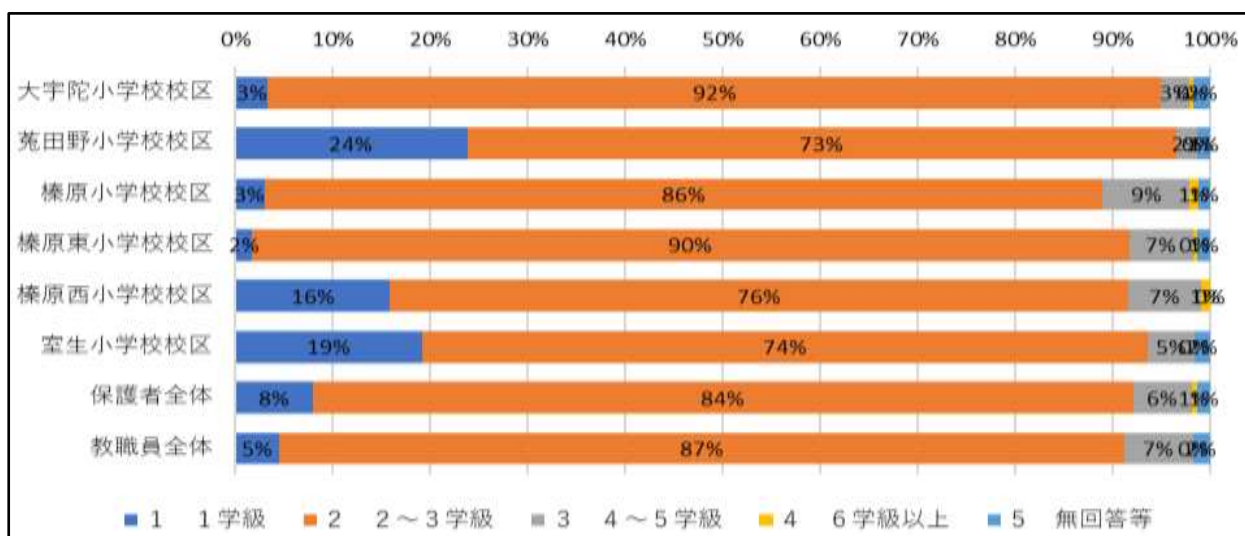
問3 あなたは、小学校の1学級あたりの児童数について、どの程度が望ましいと思われますか。



問4 あなたが、問3で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内に○)



問5 あなたは、小学校の1学年の学級数について、どの程度が望ましいと思われますか。



問6 あなたが、問5で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内に○)



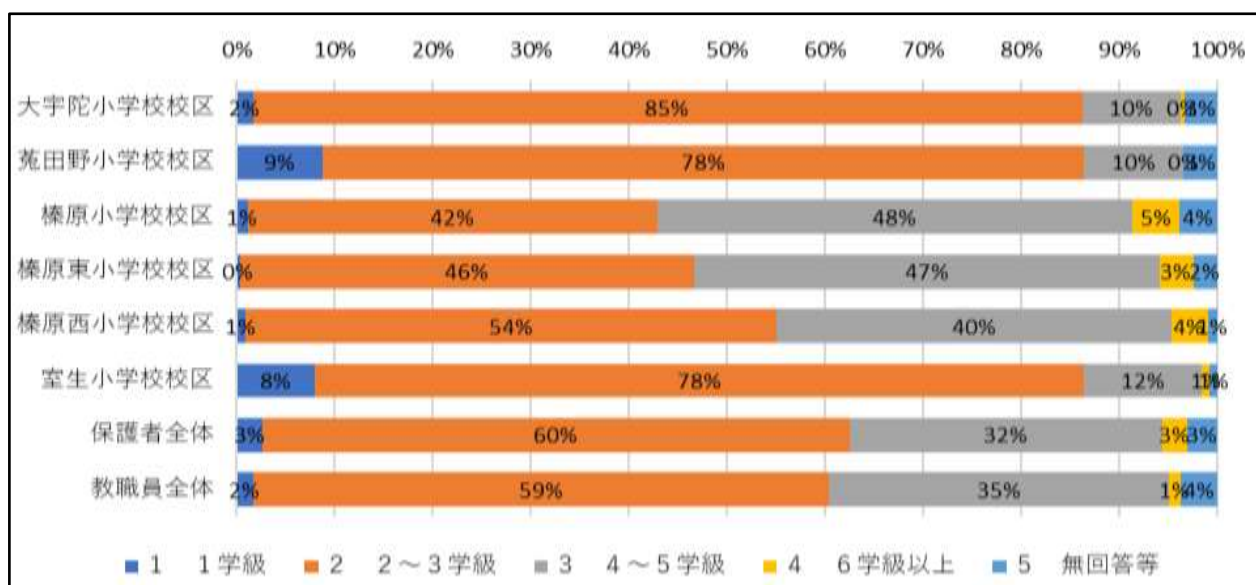
問7 あなたは、中学校の1学級あたりの生徒数について、どの程度が望ましいと思われますか。



問8 あなたが、問7で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内に○)



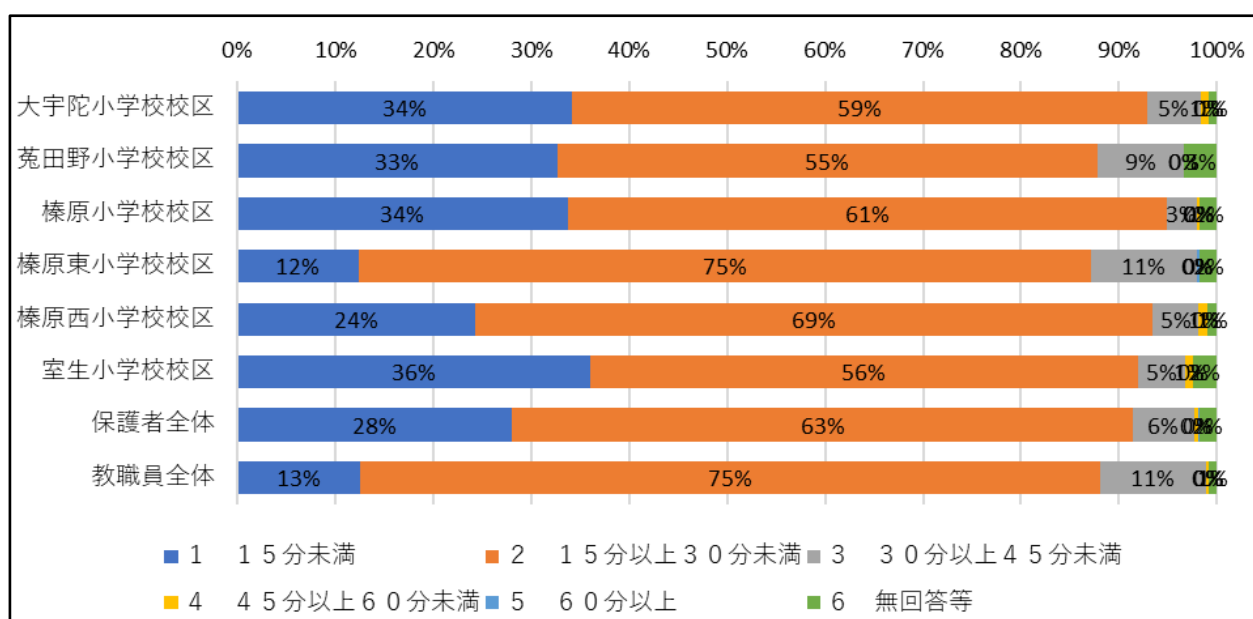
問9 あなたは、中学校の1学年の学級数について、どの程度が望ましいと思われますか。



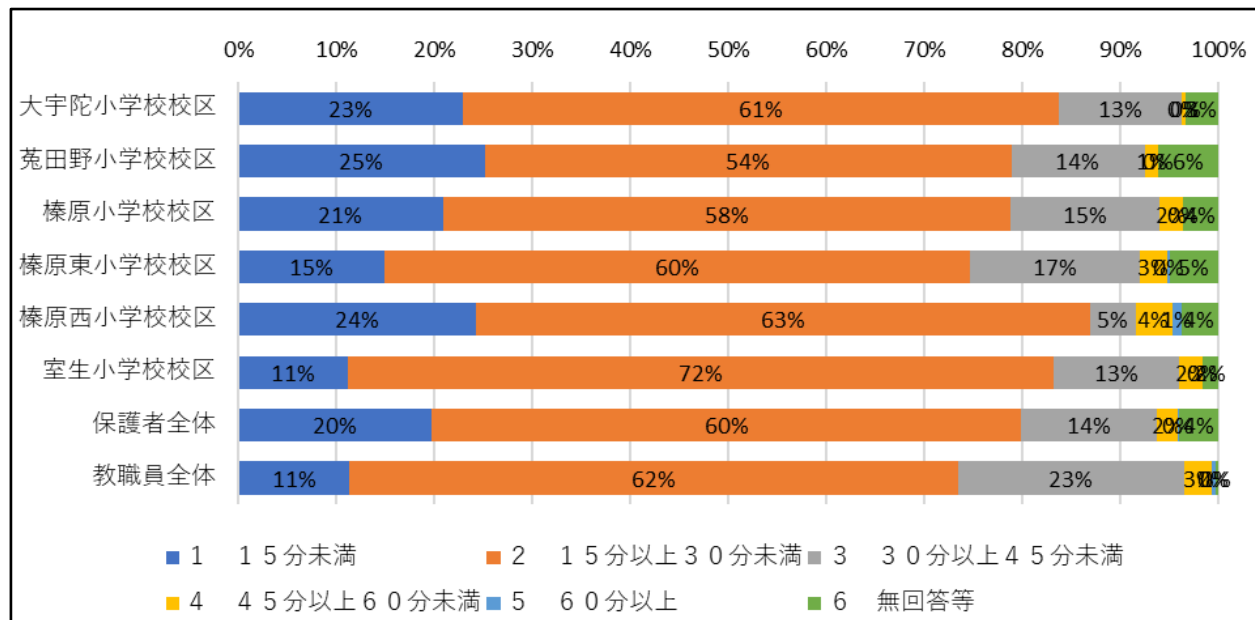
問10 あなたが、問9で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内に○)



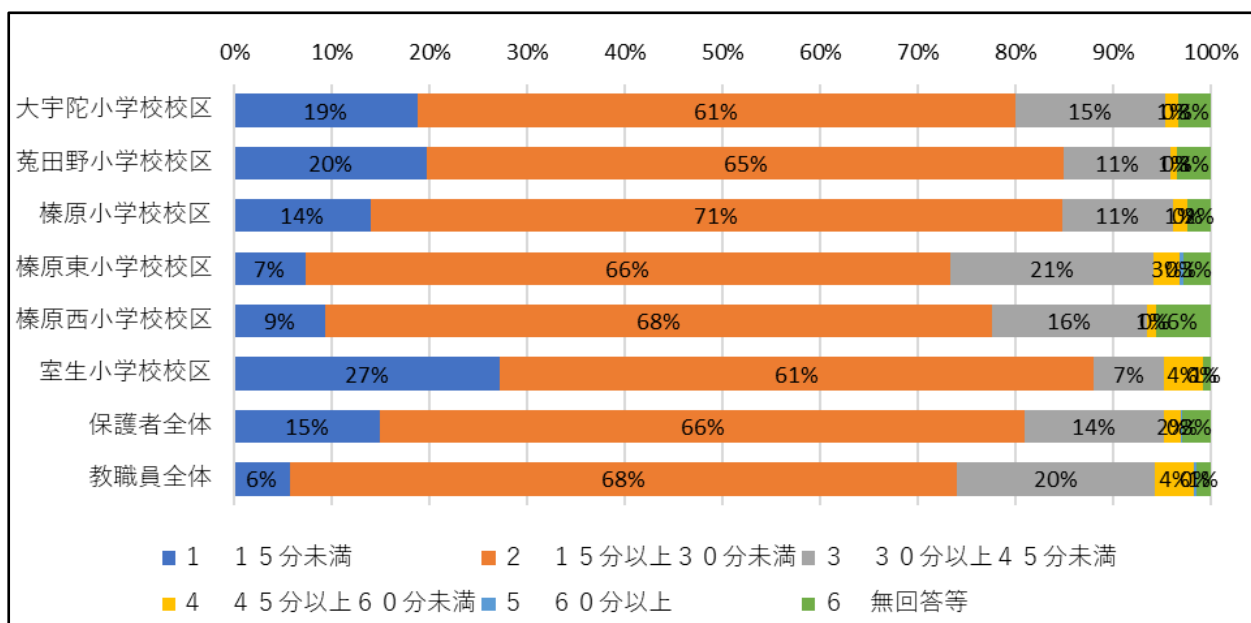
問11 小学校まで徒歩通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。



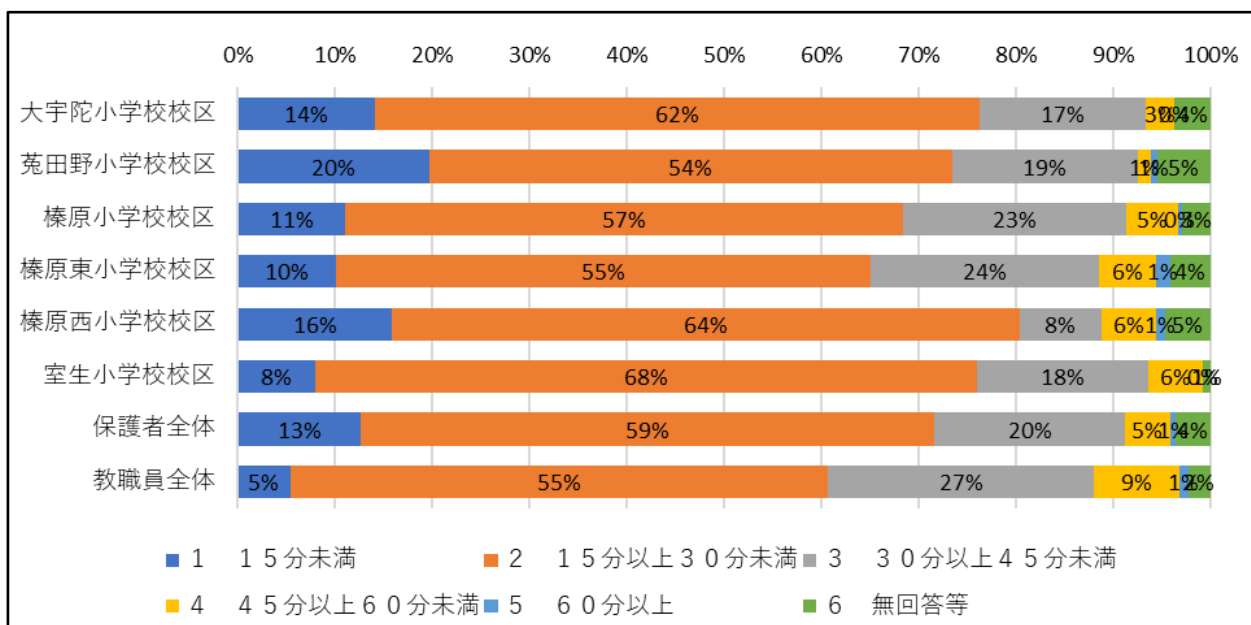
問12 小学校までスクールバスで通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。



問13 中学校まで徒歩または自転車で通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。



問14 中学校までスクールバスで通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。



問15 児童生徒にとってどのような教育環境が必要だと考えますか。(3つ以内に○)



5 今後について

(1) 今後の検討課題

アンケート調査の結果から、1学級あたりの児童生徒数は21～30人、1学年あたりの学級数は2～3学級が望ましいとする回答が、小中学校とも保護者、教職員の過半数を超え、理想とする学級、学校規模の姿が浮き彫りになった。この理想とする学級、学校の規模に宇陀市立学校の現状を当てはめてみると、令和2年5月1日現在、特別支援学級を除く小学校6校47学級、中学校4校24学級のうち、21～30人で編成される学級は、小学校19学級(40.4%)、中学校12学級(50.0%)となっている。一方で、31人を超える学級は、3小学校の5学級(10.7%)、1中学校の3学級(12.5%)であり、20人以下の学級は、6小学校の23学級(48.9%)、3中学校の9学級

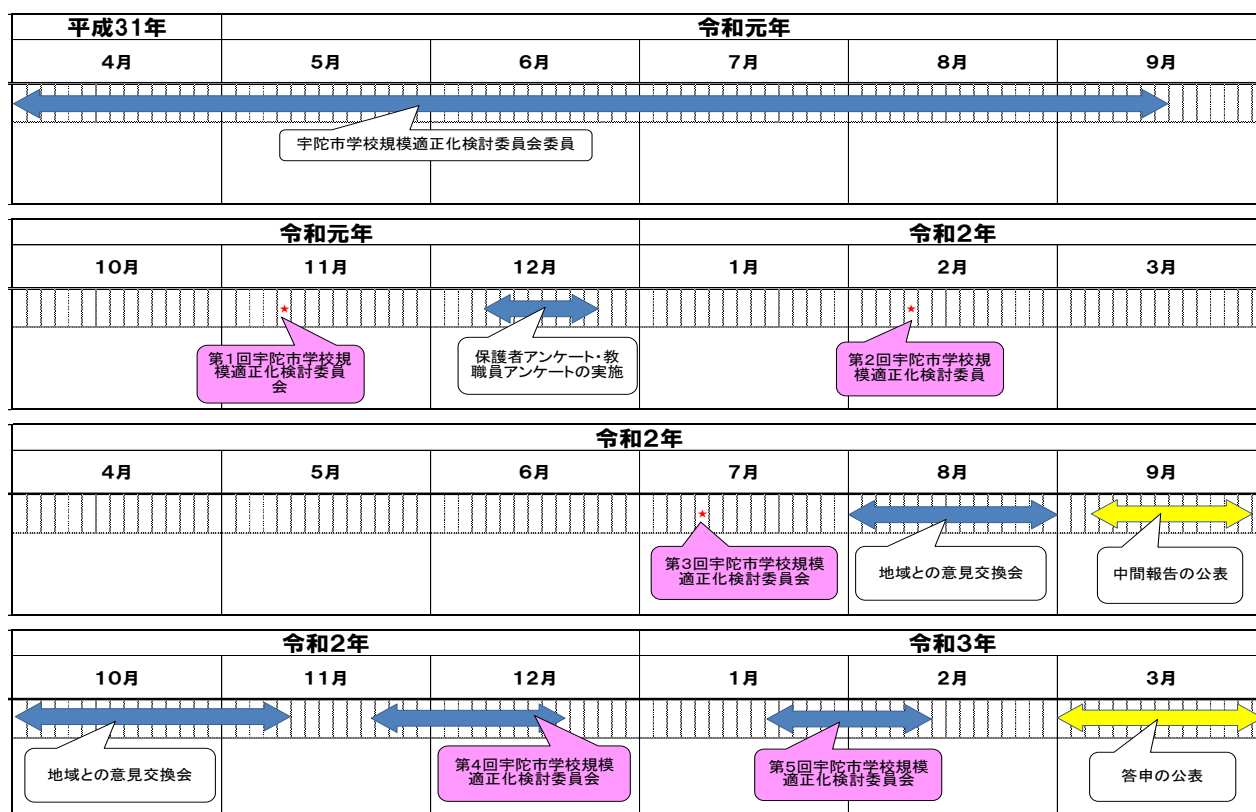
(37.5%)である。また、全学年がクラス替えのできない単学級による学校は、小学校で2校、中学校で3校存在し、うち中学校2校においては、少人数加配等により2学級を維持している現状である。

このように、宇陀市では小学校の小規模化が進むとともに、一つの中学校に生徒が集中する一方で、他の中学校では小規模化が進んでいることが見て取れる。

学校規模の適正化に当たっては、既に同校種の統廃合のみならず、施設一体型の小中学校や義務教育学校など新しい形の学校が存在する。また、小規模校を存続させる場合においては、そのメリットを最大限に生かし、デメリットを緩和するための方策として、ICTを活用した遠隔授業の実施などが報告されている。令和2年に新型コロナウイルス感染症が猛威を振るい、学校では長期間の臨時休業を余儀なくされた。その対策として、国のGIGAスクール構想が当初の予定から前倒して急ピッチで進められることとなり、本市においても図らずも遠隔授業を可能とする教育環境が整いつつある。このように様々な選択肢が広がる中、今後、さらに通学条件など地域の実情も踏まえ、中長期的な視点に立って市全体の児童生徒数の推移を見据えた上で、将来の子どもにとって理想的な教育環境を実現する学校の形とはどのようなものなのか考えていくことが求められる。

(2) 今後のスケジュール

答申に向けたスケジュールについては、下表のとおりである。



○宇陀市学校規模適正化検討委員会条例

平成31年3月25日
条例第14号

(設置)

第1条 宇陀市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置について検討し、望ましい教育環境の整備に取り組むため、宇陀市学校規模適正化検討委員会（以下「検討委員会」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は、宇陀市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、宇陀市立小学校及び中学校の適正規模及び適正配置に関することその他教育委員会が必要と認める事項について審議し、教育委員会に答申する。

2 検討委員会は、必要に応じ、前項に規定する事項について、教育委員会に建議することができる。

(組織)

第3条 検討委員会は、委員15人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱又は任命する。

- (1) 学識経験者
- (2) 市立学校長及び市立幼稚園長
- (3) PTAの代表者
- (4) 自治会の代表者
- (5) その他教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長を1人置き、委員の互選によりこれらを定める。

2 委員長は、会務を総理し、検討委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討委員会の会議は、委員長が招集する。ただし、委員長が選出されていないときは、教育委員会が招集する。

2 会議の議長は、委員長がこれに当たる。

3 検討委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。

4 検討委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

5 委員長は、必要に応じ検討委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第7条 検討委員会の庶務は、教育委員会事務局教育総務課において処理する。

(委任)

第8条 この条例に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が検討委員会に諮って定める。

附 則

この条例は、平成31年4月1日から施行する。

宇陀市学校規模適正化検討委員会委員

任期 令和元年4月1日～令和3年3月31日

			委員氏名	備 考
1	学識経験者		赤沢 早人	奈良教育大学 教授
2			東畠 智子	奈良教育大学教職大学院 准教授
3	市立学校長及び 市立幼稚園長	幼稚園	太田千佳子	幼稚園園長代表
4		小学校	中島 史朗	小学校校長代表
5		中学校	泉尾 勝英	中学校校長代表
6	PTAの代表者	幼稚園	鍛冶本 克彦	市PTA幼稚園代表
7		小学校	丸谷 和樹	市PTA小学校代表
8		中学校	覺地 優子	市PTA中学校代表
9	自治会の代表者	大宇陀地域	中野 利幸	大宇陀連合自治会代表
10		菟田野地域	山中 正策	菟田野連合自治会代表
11		榛原地域	栗谷 宗久	榛原連合自治会代表
12		室生地域	上田 一彦	室生連合自治代表
13	その他教員委員会が 必要と認める者		辻合 裕二	株式会社 共益社 代表取締役
14			増井 早知峰	早知峰GARDEN+LANDSCAPE主催
15			勝村 茂之	宇陀市企画財政部財政課長

宇教第 1 2 1 7 号

令和元年 1 1 月 1 2 日

宇陀市学校規模適正化検討委員会

委員長 赤沢 早人 様

宇陀市教育委員会

諮 問 書

宇陀市学校規模適正化検討委員会条例（平成 3 1 年宇陀市条例第 1 4 号）第 2 条第 1 項の規定により、下記の事項について諮問します。

記

1 諮問事項

- (1) 宇陀市立小・中学校の規模の適正化に関する基本的な考え方について
- (2) 宇陀市立小・中学校の配置の適正化に関する基本的な考え方について

2 諮問理由

児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身につけさせることが重要であり、一人一人の資質や能力を伸ばしていくうえでも、小・中学校では一定の集団規模が確保されていることが望ましいものと考えられます。

全国的に少子化が進む中、宇陀市においても、小・中学校の小規模化が進んでおり、今後もこの傾向は続くものと考えられます。

宇陀市の児童生徒にとって、よりよい教育環境を創るため、将来を見据えた適正規模及び適正配置の在り方について、検討する必要があると考えています。

以上のことから、上記に掲げる事項について諮問します。

保護者用

学校の規模・配置に関するアンケート調査
ご協力をお願い

宇陀市学校規模適正化検討委員会
委員長 赤 沢 早 人

保護者の皆様には、日ごろから本市教育行政に対して格別のご理解・ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、本市では将来を担う子どもたちに、よりよい教育環境を整えるとともに、その維持向上を図ることを目的として、宇陀市学校規模適正化検討委員会において小・中学校の適正規模・適正配置について検討を進めております。

この調査は市立小・中学校の適正規模・適正配置についての基礎資料とするため、皆様のご協力をお願いするものです。

この調査の回答は全て統計的に処理し、上記の目的以外に使用することはありません。この調査の進捗をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

<記入上の注意>

- 1 氏名を記入していただく必要はございません。
- 2 回答は、特に指定がなければ、1問につき、1つだけ○をご記入ください。() 内に指示がある場合は、指示に従ってください。
- 3 兄弟姉妹が市立保育所・幼稚園・こども園・小学校・中学校に通っており、この調査票が複数個いた場合は、一番下のお子さんを通じて、1部だけご提出ください。
- 4 記入いただいた調査票は、12月20日(水)までに、園・所・学校に提出をお願いします。
連絡先 宇陀市教育委員会事務局 教育総務課 電話 822-3973

問1 あなたのお住まいの地域を、小学校校区でお答えください。

- | | | |
|------------|------------|-----------|
| 1 大平小学校校区 | 2 桑田小学校校区 | 3 横瀬小学校校区 |
| 4 徳島東小学校校区 | 5 徳島西小学校校区 | 6 宝生小学校校区 |

問2 あなたのお子さん現在通っている校種をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

- | | | |
|----------------|-------|-------|
| 1 保育所・幼稚園・こども園 | 2 小学校 | 3 中学校 |
|----------------|-------|-------|

問3 あなたは、小学校の1学級あたりの児童数について、どの程度が望ましいと思われますか。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 10人以下 | 2 11人～20人 | 3 21人～30人 |
| 4 31人～35人 | 5 36人～40人 | |

問4 あなたは、問3で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内○)

- 1 一人一人の個性に応じたきめ細かで丁寧な指導が可能である。
- 2 学級で一人一人が活躍する機会がある。
- 3 先生の指導が行き届かなくなるのではと不安である。
- 4 子ども同士が刺激し合い、切磋琢磨する機会が増える。
- 5 友だち同士の関わりが少なく、コミュニケーション能力が育ちにくい。
- 6 たくさんさんの友だちから、多様な考えに触れることができる。
- 7 その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

問5 あなたは、小学校の1学年の学級数について、どの程度が望ましいと思われますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 1 1学級 | 2 2～3学級 | 3 4～5学級 | 4 6学級以上 |
|-------|---------|---------|---------|

問6 あなたは、問5で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内○)

- 1 同じ友だちとずっと過ごせるのでお互いが理解し合え、親密になれる。
- 2 異学年での交流がしやすく、学年を超えた友だちができる。
- 3 学校行事等で一人一人が活躍する場があり、責任感が育つ。
- 4 友だち同士のトラブルがあった場合、クラス替えで環境を変えることができる。
- 5 人間関係が固定化・序列化する恐れがある。
- 6 PTA活動において、保護者の負担が少ない。
- 7 その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

問7 あなたは、中学校の1学級あたりの生徒数について、どの程度が望ましいと思われますか。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 10人以下 | 2 11人～20人 | 3 21人～30人 |
| 4 31人～35人 | 5 36人～40人 | |

問8 あなたが、問7で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内に○)

- 1 一人一人の個に応じたきめ細かな丁寧な指導が期待できる。
- 2 学級で一人一人が活躍する機会がある。
- 3 先生の指導が行き届かなくなるのではと不安である。
- 4 子ども同士が刺激し合い、切磋琢磨する機会が増える。
- 5 友だち同士の関わりが少なく、コミュニケーション能力が育ちにくい。
- 6 たくさんの友だちから、多様な考えに触れることができる。
- 7 その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由に記入ください。)

問9 あなたは、中学校の1学年の学級数について、どの程度が望ましいと思われるか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 1 1学級 | 2 2～3学級 | 3 4～5学級 | 4 6学級以上 |
|-------|---------|---------|---------|

問10 あなたが、問9で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内に○)

- 1 同じ友だちとずっと通わせるのでお互いが理解し合え、秘密になれる。
- 2 異学年での交流がしやすく、学年を超えた友だちができる。
- 3 学校行事等で一人一人が活躍する場がある。
- 4 友だち同士のトラブルがあった場合、クラス替えで環境を変えられることができる。
- 5 人間関係が固定化し、差別化する恐れがある。
- 6 たくさんの友だちや先生から、多様な考えに触れることができる。
- 7 部活動等の種別・内容が制限される。
- 8 その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由に記入ください。)

問11 小学校まで進歩進学する場合、通学時間ほどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 15分未満 | 2 15分以上30分未満 | 3 30分以上45分未満 |
| 4 45分以上60分未満 | 5 60分以上 | |

問12 小学校までスクールバスで通学する場合、通学時間ほどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 15分未満 | 2 15分以上30分未満 | 3 30分以上45分未満 |
| 4 45分以上60分未満 | 5 60分以上 | |

問13 中学校まで進歩または自転車通学する場合、通学時間ほどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 15分未満 | 2 15分以上30分未満 | 3 30分以上45分未満 |
| 4 45分以上60分未満 | 5 60分以上 | |

問14 中学校までスクールバスで通学する場合、通学時間ほどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 15分未満 | 2 15分以上30分未満 | 3 30分以上45分未満 |
| 4 45分以上60分未満 | 5 60分以上 | |

問15 児童生徒にとってどのような教育環境が必要だと考えますか。(3つ以内に○)

- 1 子ども同士が刺激し合い、学力・体力を高め合うことができる環境
- 2 一人一人が行き届いたきめ細かな指導を受けることができる環境
- 3 社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につけることができる環境
- 4 たくさんの友だち、先生と触れ合うことができる環境
- 5 多様な学習形態の授業により、個々の能力を高めることができる環境
- 6 ICTを活用した遠隔授業を受けることができる環境
- 7 部活動が充実している環境
- 8 義務教育の9年間を一貫して教育を受けられる環境(小中一貫校・義務教育学校【注1】)
- 9 その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由に記入ください。)

【注1】 小中一貫校・・・既にある小学校・中学校を組み合わせて、9年間の一貫教育を行う学校
義務教育学校・・・小学校課程から中学校課程までの義務教育の9年間を一つの学校として一貫して行う新しい学校

ご協力ありがとうございます。

収報員用

学校の規模・配置に関するアンケート調査
ご協力をお願い

宇陀市学校規模適正化検討委員会
委員長 赤 沢 里 人

教職員の皆様には、目ごろから本市教育行政に対して格別のご理解・ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、本市では将来を担う子どもたちに、よりよい教育環境を整えるとともに、その維持向上を図ることを目的として、宇陀市学校規模適正化検討委員会において小・中学校の適正規模・適正配置について検討を進めております。

この調査は市立小・中学校の適正規模・適正配置についての基礎資料とするため、皆様のご協力をお願いするものです。

この調査の回答は全て統計的に処理し、上記の目的以外に使用することはありません。この調査の進捗をご理解の上、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

<記入上の注意>

- 1 氏名を記入していただく必要はありません。
- 2 回答は、特に指定がなければ、1問につき、1つだけ○をご記入ください。() 内に指示がある場合は、指示に従ってください。
- 3 記入いただいた調査票は、令和元年12月20日(金)までに提出をお願いします。

連絡先 宇陀市教育委員会事務局 教育総務課 電話82-3973

問1 あなたが勤務されている園・所・学校をお書きください。

- | | | | |
|------------|-----------|----------|-----------|
| 1 徳原幼稚園 | 2 徳原東幼稚園 | 3 徳原西幼稚園 | 4 桑田野保育園 |
| 5 徳原北保育園 | 6 大宇陀こども園 | 7 宝生こども園 | |
| 8 大宇陀小学校 | 9 桑田野小学校 | 10 徳原小学校 | 11 徳原東小学校 |
| 12 徳原西小学校 | 13 宝生小学校 | | |
| 14 大宇陀中学校 | 15 桑田野中学校 | 16 徳原中学校 | 17 宝生中学校 |
| 18 しらゆり保育園 | | | |

問2 あなたは、小学校の1学級あたりの児童数について、どの程度が望ましいと思われますか。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 10人以下 | 2 11人～20人 | 3 21人～30人 |
| 4 31人～35人 | 5 36人～40人 | |

問3 あなたは、問2で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内)○

- 1 一人一人の習に合わせたきめ細かで丁寧な指導が期待できる。
- 2 学級で一人一人が活躍する機会がある。
- 3 先生の指導が行き届かなくなるのではと不安である。
- 4 子ども同士が刺激し合い、切磋琢磨する機会が増える。
- 5 友だち同士の関わりが少なく、コミュニケーション能力が育ちにくい。
- 6 たくさん友だちから、多様な考えに触れることができる。
- 7 その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

問4 あなたは、小学校の1学年の学級数について、どの程度が望ましいと思われますか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 1 1学級 | 2 2～3学級 | 3 4～5学級 | 4 6学級以上 |
|-------|---------|---------|---------|

問5 あなたは、問4で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内)○

- 1 同じ友だちとずっと過ごせるのでお互いが理解し合え、親密になれる。
- 2 異学年での交流がしやすく、学年を超えた友だちができる。
- 3 学校行事等で一人一人が活躍する場があり、責任感が育つ。
- 4 友だち同士のトラブルがあった場合、クラス替えで環境を変えることができる。
- 5 人間関係が固定化・序列化する恐れがある。
- 6 PTA活動において、保護者の負担が少ない。
- 7 その他(上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

問6 あなたは、中学校の1学級あたりの生徒数について、どの程度が望ましいと思われますか。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 10人以下 | 2 11人～20人 | 3 21人～30人 |
| 4 31人～35人 | 5 36人～40人 | |

問7 あなたが、問6で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内に○)

- 1 一人一人の個性に応じたきめ細かで丁寧な指導が期待できる。
- 2 学級で一人一人が活躍する機会がある。
- 3 先生の指導が行き届かなくなるのではと不安である。
- 4 子ども同士が相談し合い、切磋琢磨する機会が増える。
- 5 友だち同士の関わりが少なく、コミュニケーション能力が育ちにくい。
- 6 たくさんの友だちから、多様な考えに触れることができる。
- 7 その他 (上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

問8 あなたは、中学校の1学年の学級数について、どの程度が望ましいと思われるか。

- | | | | |
|-------|---------|---------|---------|
| 1 1学級 | 2 2～3学級 | 3 4～5学級 | 4 6学級以上 |
|-------|---------|---------|---------|

問9 あなたが、問8で回答した理由に近いものはどれですか。(3つ以内に○)

- 1 同じ友だちとずっと過ごせるのでお互いが理解し合え、親密になれる。
- 2 異学年での交流がしやすく、学年を超えた友だちができる。
- 3 学校行事等で一人一人が活躍する場がある。
- 4 友だち同士のトラブルがあった場合、クラス替えで環境を変えられることができる。
- 5 人間関係が固定化・序列化する恐れがある。
- 6 たくさんの友だちや先生から、多様な考えに触れることができる。
- 7 部活動等の種類・内容が制限される。
- 8 その他 (上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

問10 小学校まで徒歩通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 15分未満 | 2 15分以上30分未満 | 3 30分以上45分未満 |
| 4 45分以上60分未満 | 5 60分以上 | |

問11 小学校までスクールバスで通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 15分未満 | 2 15分以上30分未満 | 3 30分以上45分未満 |
| 4 45分以上60分未満 | 5 60分以上 | |

問12 中学校まで徒歩または自転車通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 15分未満 | 2 15分以上30分未満 | 3 30分以上45分未満 |
| 4 45分以上60分未満 | 5 60分以上 | |

問13 中学校までスクールバスで通学する場合、通学時間はどの程度までが、通学可能な範囲と考えますか。

- | | | |
|--------------|--------------|--------------|
| 1 15分未満 | 2 15分以上30分未満 | 3 30分以上45分未満 |
| 4 45分以上60分未満 | 5 60分以上 | |

問14 児童生徒にとってどのような教育環境が必要だと考えますか。(3つ以内に○)

- 1 子ども同士が相談し合い、学力・体力を高め合うことができる環境
- 2 一人一人が行き届いたきめ細かな指導を受けることができる環境
- 3 社会性や協調性、コミュニケーション能力を身につけることができる環境
- 4 たくさんの友だち、先生と触れ合うことができる環境
- 5 多様な学習形態の授業により、個々の能力を高めることができる環境
- 6 ICTを活用した遠隔授業を受けることができる環境
- 7 部活動が充実している環境
- 8 義務教育の9年間を一貫して教育を受けられる環境 (小中一貫校・義務教育学校【注1】)
- 9 その他 (上記以外に理由がある場合は、下欄に自由にご記入ください。)

【注1】 小中一貫校・・・既にある小学校・中学校を組み合わせ、9年間の一貫教育を行う学校
義務教育学校・・・小学校課程から中学校課程までの義務教育の9年間を一つの学校として一貫して行う新しい学校

ご協力ありがとうございます。